

オジロワシ（タカ科） 全長 89 センチ

11月1日、今年も大仙市にオジロワシが飛来した。

毎年決まっているかのように、雄物川と玉川の合流点付近、地元でナダラと呼ぶ急斜面に現れた。昨シーズンは10月28日に初確認されていたので、4日遅れである。

里山は紅葉の真っ最中であり、ナダラの斜面も鮮やかな彩りで覆われている。お気に入りの枝で休息するオジロワシと紅葉の取り合わせは、この時期しか見られない光景である。



最初に飛来したオジロワシ（オス）

それから5日後、もう1羽のオジロワシが飛来した。

互いに慣れ親しんだ相手でしょうか、仲良く並んでいます。昨シーズン、この地に約5か月間滞在したつがいと同じ個体ではないだろうか。オスが尾羽を開いた一瞬、付け根の黒い斑点模様が昨シーズンの個体と一致しました。メスも一緒に仲良く行動していることから、同じつがいと思われます。



遅れてやってきたメス（左）に近づく。



ピッタリ寄り添い、仲がいい所を見せます。

鮭の遡上も最盛期に入り、オジロワシが餌を確保するには丁度いい季節です。

しかし、これから寒さが厳しい季節に入り、サケの遡上も 12 月いっぱいまで終ることから、餌となる魚はどのようにして食べていくのだろうか。

ナダラの下を流れる雄物川には多くのカモ類が集まる、ワンドと言われる流れの緩いポイントがあります。生き延びるためにはカモ類を襲うこともあるようで、必死になり命を懸けていくのでしょう。



オスの尾羽の付け根に黒い斑点があった。



左のメスが鮭を食べていた所へオスが降り立ち、周囲を警戒していた。